

37年前、あの日ここから飛びたった...



羽田空港スタンディング



1985年8月12日月曜日 18時56分、羽田発伊丹行 JL123 便が、群馬県多野郡上野村の御巣鷹の尾根に墜落し、乗客乗員 520 名が亡くなりました。
事故後、JAL 経営は 4 つの誓いを立てました。

絶対安全の確立
現場第一主義

公正明朗な人事
労使関係の安定と融和

しかし 25 年後、JAL は安全のためモノを言う組合を潰すため、ベテラン乗員・客室乗務員 165 名を不当に解雇しました。安全軽視・利益優先の経営は、いったいどれだけの犠牲を払えば改められるのでしょうか。不当解雇撤回争議は今年で 12 回目の夏を迎えます。

事故を知る現役社員は 1 割もいません。赤坂社長の入社動機は 123 便事故で「あのような悲惨な事故を 2 度と起こしてはならない」と思ったそうです。社長である今、連続事故の教訓「安全なくして利益なし」を自覚し、安全運航の基盤である労使関係確立のため JAL 争議を貴方が解決すべきです。

皆さまのご参加をお待ちしています



日時	8月11日(木)	12時~13時
集合	羽田空港第1ターミナル到着階外側通路	



乗り物は人と人を繋ぎ、希望や夢を運ぶもの。
利便性・快適性・運賃より、何より安全を優先に。
それは命を運ぶからです。
安全は命を守ること、それが最大の使命です。
そして、安全には終わりがありません。

8.12 連絡会 美谷島邦子さん手記 「茜雲」より

主催：

JAL 被解雇者労働組合

info@jhu-wing.main.jp

☎ 080-4905-3383

<https://jhu-wing.main.jp/>

JAL 争議の全面解決をめざす実行委員会準備会 (千代田区労協 水久保)

☎ 03-3264-2905